

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(S)

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06309

研究課題名（和文）浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究 - 三次元海底地形で開くパラダイム -

研究課題名（英文）Advanced Interdisciplinary Research on Coastal Areas based on Shallow Seafloor Geomorphology: Development of a Paradigm through 3D Seafloor Mapping

研究代表者

菅 浩伸（Kan, Hironobu）

九州大学・比較社会文化研究院・教授

研究者番号：20294390

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 128,100,000円

研究成果の概要（和文）：沿岸浅海域は、その重要性にもかかわらず科学的知見が少ない。本研究では最先端技術を用いて沿岸浅海域の高解像度地形図を作成し、未知の海域を可視化する。その上で自然科学から人文・社会科学に至る学際研究を進めることを目的とした。本研究では、いくつかの測量手法を組み合わせ、浅海から沿岸を網羅する海陸シームレス地形図の作成に成功した。また、マルチビームとフォトグラメトリ技術を組み合わせ、センチメートル単位の高解像度で地理座標をもつ三次元モデルを作成することにも成功した。学際研究では、海底の可視化を基に、地形・地質、波浪シミュレーション、生物学、文化地理学、水中考古学に関する研究成果をあげた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまで地形図が整備されていなかった浅海域で解像度の高い海底地形図を作成するとともに、浅海から沿岸にかけてシームレスに高解像度地形データを作成することに成功した。また、作成した高解像度海底地形図を利用し、多くの研究領域で先進的な学際研究を進めている。一連の研究によって、未知の地形と大規模な生物群集が発見された石垣島名蔵湾は環境省が保全海域とするよう手続きを進めている。また、本研究で可視化した戦争水中文化遺産については、各地の平和記念館や報道と協力して、教育および啓発活動へつなげた。未知の浅海域を可視化することによって、沿岸浅海域の社会的価値を高めることにつながっている。

研究成果の概要（英文）：The shallow coastal waters have little scientific knowledge despite their importance, such as being close to human settlements. One of the purposes of this study was to create high-resolution topographic maps of coastal area by using cutting-edge technologies and to visualize unknown seafloor. This study also promoted interdisciplinary research from various fields of natural science to humanities and social sciences. In this study, we succeeded in creating a seamless topographic map covering shallow seafloor and coasts by combining several surveying methods. We also succeeded in creating a three-dimensional model with geographic coordinates at high resolution in centimeters by combining multibeam and photogrammetry technology. In the interdisciplinary research, we promoted research on geomorphology, geology, three-dimensional simulation of waves, biology, cultural geography, and underwater archeology based on the visualization of the seafloor.

研究分野：地理学

キーワード：海洋探査 地形 サンゴ礁 可視化 環境

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

人口やインフラが集中する沿岸域は防災上重要な場所であるとともに、観光や漁場としての利用も盛んな場所である。しかし、沿岸浅海域は、その重要性にもかかわらず科学的知見が少ない。また、水深 130m 以浅の浅海域は、氷期・間氷期で侵食・堆積作用を交互に受けながら地形がつけられる地域であるが、これまでの地形学で扱われることは僅かであった。

我々の研究グループでは、H22~24 年度科研費(基盤 A)にてワイドバンドマルチビーム測深機を導入し、水深 1~400 m までの海底地形を 1~2 m グリッドの高精度で可視化することに成功した。マルチビーム測深は、扇形に広がるビームで海底地形を広く三次元的に測る装置である。我々は琉球列島久米島・石垣島・喜界島などで測深を実施し、世界的にも先駆的な浅海域の高解像度地形情報を得ることに成功した。H25 年度開始の科研費(基盤 A)では、測深機にサイドスキャンユニットを装備するなどの改良を加えながら測深調査を積み重ね、作成した高解像度海底地形図を基に地質・生物・考古学などの学際研究を開始した。

2. 研究の目的

(1) 沿岸域・浅海域マッピング技術の高度化

浅海域のマルチビーム測深による高解像度海底地形図の作成を進める。

マルチビーム測深によって作成した高解像度海底地形図と空撮写真測量など極浅海域から海岸域を測量することができるマッピング手法を合わせて、沿岸域の海陸シームレス地形図の作成を行う。

フォトグラメトリーなどによるマッピング手法とマルチビーム測深を合わせて、海底可視化技術のさらなる高解像度化を進める。

(2) 高解像度海底地形図を基にした学際研究の推進

作成した高解像度海底地形図を基に地形学の新たな領域「浅海底地形学」を切り開くための端緒となる研究を進めるとともに、地質・生物・考古学など広領域の研究者とフィールド調査を重ねながら、学際融合研究を進める。

3. 研究の方法

(1) 上記目標を達成するため、以下の 3 つの方針をたて研究を進めた。

研究ツール強化：世界最高水準の測深技術を進化させ、画像解析・試料分析においても最先端の結果が得られるよう、設備と技術の進化を図る。

先進的学際フィールド研究の推進：他にない沿岸域高解像度地形図を基にして、学際的研究組織によるフィールドワークを実施し、新たな科学的事実を加える活動を積み重ねる。とくに我々の研究グループが得意とする潜水調査をとまなう地形・地質・水中文化遺産研究を実施することに重点を置く。

世界に向けた成果発信：主要国際学会で成果を発表し、国際誌にオープンアクセスで論文を掲載する。国際共同研究組織をつくり国際的な研究グループへ発展させる。

(2) 学際研究は次のような役割分担・研究内容で実施した。

浅海底地形学：地形種とその分布を記載し、地形の成立過程を考察している。サンゴ礁地形が専門である菅、長谷川氏、堀氏、中島氏、中井達郎氏のほか、カルスト地形が専門である浦田健作氏が参加した。

地質学・堆積学：測深海域の海底地層探査と、堆積物の採取および分析を軸に研究を実施した。役割は、藤田和彦氏(礁堆積物)、横山氏(AMS 年代測定)、浦田氏(石灰岩)、菅(サンゴ礁固結層)である。

沿岸環境・防災：高解像度海底地形図は沿岸の水環境を把握したり、防災面でのシミュレーションなどに活用できる。ここでは、後藤和久氏が中心となり、本研究で得られた高解像度海底地形図および浅海域～沿岸域シームレス高解像度地形図をもとに波浪シミュレーションを行った。長尾氏は沿岸水の物理的特性を基に水塊構造や流動を明らかにするため多点鉛直水質調査や流速計を用いた調査や解析を実施した。また、鈴木氏と井上麻夕里氏がボーリングコア試料中のサンゴの微量元素分析から、沿岸の古環境を復元した。

生物・生態・環境保全：海域の生物分布を明らかにしたり、環境保全計画を立てる際に、高解像度海底地形図を基に先進的な研究を進めることが可能である。藤田喜久氏は沿岸域にて甲殻類を中心に生物種の記載を行った。多くの新種を発見する傍ら、人文科学との連携も進めている。中井氏は環境保全に関する研究を進めており、波利井氏と Sinniger 氏は石垣島名蔵湾などで高解像度海底地形図を基にした生物分布調査を実施した。

文化・人類・考古学：漁民の海域利用と漁場知識は、自然と人との伝統的な関わりをあらわすとともに、その場所の地形や生態系と密接に関わるためこれらを理解する重要な観察結果ともなる。琉球列島の漁民ほど詳細に漁場知識が記録されている地域は世界で他にない。渡久地氏と高橋そよ氏が高解像度海底地形図を用いて漁民への詳細な聞き取りを行い、地形・生態系と人との関わりを探求した。海洋生物学を専門とする藤田喜久氏は、生物が関わる文化人類学的研

究について生物分野からサポートを行った。小野氏と片桐氏、中西氏は、石垣島屋良部沖海底遺跡や本部半島沖の戦争遺跡エモンズなど多くの水中文化遺産研究を進めた。

海外の研究協力者として、サンゴ礁の海水流動が専門の Ana Vila Concejo 氏（シドニー大）、IODP グレートバリアリーフ掘削のリーダーを務めた Jody Webster 氏（シドニー大）、サンゴ礁地形・リモートセンシングが専門の Stephanie Duce 氏（ジェームズクック大）、生物学が専門で国際サンゴ礁学会会長も務めた Richard Aronson 氏（フロリダ工科大）、海洋学・サンゴ礁地質学が専門である Lauren T. Toth 氏（米国地質調査所）、考古学が専門でフォトグラメトリー技術を先導する山船晃太郎氏（テキサス A&M 大学）とともに本研究課題を実施した。

4. 研究成果

(1) 沿岸域・浅海域マッピング技術の高度化

マルチビーム測深による浅海域の高解像度海底地形図作成

機材整備として、平成 28 年度に現有のマルチビーム測深機に最新の慣性 GPS ジャイロ（アブラニクス社製・POS MV SURFMASTER）を装備し、位置精度を向上させた。また、現地調査の精度向上のため GPS/GLONASS 測位システム（GEOSURF 社製・ProMark120 L1/L2）を導入した。また、令和 1 年度には投下式音速度計を更新した。

マルチビーム測深調査は 5 海域で 1,420km のデータ取得航行を行い、約 106km² の海域測量を行った。平成 28 年度はサンゴ礁漁撈活動を可視化するため奄美大島大和村で測深調査を実施した。大和村は、分担者の渡久地氏が漁民の漁場認識に関する研究を積み重ねてきた地域である。測深調査には国内の分担者・協力者の他、シドニー大から Duce 氏が参加した。大和村では分担者の長谷川均氏が率いる航空写真測量や、藤田喜久氏が率いる海底の生物調査も共同で実施した。平成 29 年度はサンゴ礁の防波構造を可視化し、波浪シミュレーションに供する地形データを得るため、久高島外洋側にて測深を行った。久高島は、分担者の後藤和久氏がリーフ上の巨礫分布に関する研究を重ねてきた地域である。サンゴ礁の消波構造をつくる礁縁部から島棚に至る広範囲の測深を実施し、今後の波浪シミュレーションの基になる高解像度海底地形データを取得した。久高島では礁原部でのドローンを用いた航空写真測量も実施した。さらに与那国島南岸での測深調査も実施した。平成 30 年度には、古代からの漁場である奄美大島住用湾、1869 年に戊辰戦争へ向かった外輪船ハーマン号が座礁した房総半島勝浦、与那国島北岸にてマルチビーム測深調査を実施した。令和 2 年度には、本研究課題で実施したマルチビーム測深海域のデータ処理・可視化を完了させた。

沿岸域の海陸シームレス地形図の作成

航空レーザー測量データとマルチビーム測深の組み合わせによる海陸シームレス地形図の作成など、多様な方法論を組み合わせた新しい海底地形図の作成を進めた。マルチビーム測深では船舶が入ることができない潮間帯など極浅海域の測量が課題であった。本研究では極浅海域から海岸域を測量することができるマッピング手法とマルチビーム測深を合わせ、海陸シームレス地形図の作成を目指した。海岸域から極浅海域のマッピングでは、1) ドローンをを用いた航空写真測量、2) 衛星画像を用いた地形高度の推定、3) 航空レーザー測量の結果を検討し、マルチビーム測深を組み合わせ、新たな地形図を作成することを試みた。

平成 30 年度から令和 2 年度の 3 年間は毎年 2~3 月に、久米島ハテナハマ（無植生サンゴ洲島）におけるドローンをを用いた航空写真測量を実施した。令和 1 年度には RTK ドローン（DJI 社製 Phantom 4RTK）を導入し、これを用いて、与那国島の海岸～極浅海域および海崖、久米島のハテナハマ周辺など、サンゴ礁および岩石海岸における航空写真の撮影およびフォトグラメトリーを用いた高解像度三次元モデルの作成を実施した。久米島ハテナハマの空撮は 4 年間に及んだため、経年変化を観察可能なデータが集積しつつある。この過程で、明色の無植生サンゴ洲島において高解像度で確実な地形モデルを作成する方法論を完成させることができた。

衛星画像を用いた地形高度の推定については、平成 30 年に久米島東岸ハテナハマ周辺海域を対象として衛星画像から水深を推定する手法（Satellite Derived Bathymetry: SDB）を試みた。水深値の推定には同海域で得られたマルチビーム測深データ、および 200 点以上の地点で得た標高・水深測定値（RTK 測量値）を参照した。結果は良好であり、ハテナハマ周辺域の海陸シームレス地形図を作成することができた。

平成 29~30 年度には、航空レーザー測量データ（ALB）とマルチビーム測深データを組み合わせ陸域から海域にかけてのシームレス三次元地形モデルの作成を進めるため、石垣島・石西礁・宮古島等のデータを入手した。石垣島周辺海域の一部および石西礁の一部を対象として、測深方法の違いによる精度の検証と図化手法の検討を経て、令和 2 年度に海陸シームレス地形図を作成する手法を確立した。

フォトグラメトリーとマルチビーム測深の融合による高解像度海底可視化技術

マルチビーム測深による高解像度海底地形図をさらに高解像度化するため、フォトグラメトリー（多視点ステレオ写真測量）とマルチビーム測量との融合を試みた。フォトグラメトリー三次元モデルは、マルチビーム測深より高解像度のモデルが作成できること、テクスチャー情報を持った三次元モデルを構築することができることから、地形学と生物学の空間スケールの違いをつなぐことができると考えたためである。まず、沖縄・古宇利島沖に沈む戦跡水中文化遺産 USS Emmons を対象とした。水中写真から構築されるフォトグラメトリー三次元モデルは陸上のモデルと異なり GPS 等の位置情報を参照できないため、地理座標を持たない。本研究ではこれを解決

するアイデアとして、マルチビーム測深によって得られた座標をフォトグラメトリー三次元モデルに与えて、地理座標を持った高解像度水中フォトグラメトリーモデルを作成することを試みた。その結果、マルチビーム測深とフォトグラメトリーとの組み合わせに世界で始めて成功し、5cmグリッドの三次元モデルを作成した成果を公表した。自然地形に対する試みは久米島南岸で実施し、高解像度マルチビーム測深より1桁高い精度で、テクスチャー情報を持った三次元モデルを構築することができた。これによって地形学と生物学の空間スケールの違いをつなぐことが可能となった。さらに令和2年度には、石垣島名蔵湾および石西礁にて、水中ドローンを用いたフォトグラメトリー三次元モデル作成実験を行い、これまで実施したより広範囲のフォトグラメトリー三次元モデルを作成することが可能との見通しを得た。

(2) 高解像度海底地形図を基にした学際研究の推進

平成28年度には、久米島：久米島東部の堡礁型サンゴ礁における測深域にて、シドニー大 Vila Concejo 氏と Duce 氏を加えた国際共同調査を実施した。ここでは主に波高計・流速計を用いたサンゴ礁外縁および堡礁湖内の流向・流速の計測と、堆積物の採取を実施した。ここでは分担者の後藤和久氏と協力者の渡部真史氏が中心となってコンピューターシミュレーションを実施し、サンゴ礁の地形の違いが、礁湖への波浪の進入や流れにどのように影響するかについての予察的結果を得た。また、我々が大規模な沈水カルスト地形を発見した石垣島名蔵湾にて地層探査を実施した。この海域は我々の研究グループが高解像度海底地形図を基に地形・地質・堆積物・水質・サンゴ群集の調査を重ねている海域である。28年度は、ストリーマーケーブルを用いたマルチチャンネル音波探査によって海底下の地層断面の探査を行った。今後の浅海域地形学・地質学の構築にむけて重要な9本の地層探査断面を得ることができた。

平成29年度には、まず、学際研究推進のためのツール強化として、試料の鉱物分析を高度化させるため、X線回折装置に半導体高速1次元検出器を装備するとともに、解析用データベース（粉末X線回折データベース）を導入した。また、年代測定についても東京大学大気海洋研究所で共同研究者が実施するAMS-¹⁴C年代測定とともに、更新統試料については同研究所でウラン系列の年代測定を行った。

平成30年度には、主要なマルチビーム測深調査や大規模な現地調査を実施したが、29年度から整備した最先端の試料分析装置を用いた分析結果を基にNature誌への論文掲載に至った。30年度には久米島東部の堡礁型サンゴ礁（ハテノハマ周辺海域）で、洲島から島棚縁辺部までの連続的な三次元地形モデルを作成し、その上で洲島の地形変化、砂質堆積物の年代や移動、台風時の波高や流れの測定、波浪のシミュレーション、ボーリングコアを基にした環境変遷史研究など、多岐における研究を進めた。ここでは離水礁および洲島におけるボーリング調査も実施し、サンゴ洲島の砂質堆積物および礁石灰岩の採取を行った。また、石垣島名蔵湾ではボーリングコアの解析・年代測定および現生サンゴ調査を実施し、総合的に地形形成史および環境変遷史を復元する研究を進めた。久高島では海底地形図を基にした波浪シミュレーションとリーフ上の巨礫分布に関する研究を進めた。また、与那国島などの海底の侵食地形が顕著な海域等で地形解析を進めた。さらに、奄美大島大和村では高解像度海底地形図を基に漁民に聞き取りを行い、礁斜面の地形を利用した漁について漁業知識を記録する作業を進めた。海底地形図上に、聞き取り調査などで得られた漁民の海域利用と漁場知識を載せ、その場所の地形や生態系と密接に関わる自然と人との伝統的な関わりを可視化する試みである。

令和元年には、まず、SCUBA潜水が困難な深度における海底観察手法を広げるため、水中ドローンを導入した。さらに、波浪シミュレーションについては、従来500mグリッド地形モデルで計算していたものを、マルチビーム測深によって作成した1mグリッド地形モデルを基にスーパーコンピュータを用いて計算する準備を行った。現地調査では、与那国島にて測深し作成した高解像度浅海底地形図を用いて、島の周囲多地点での潜水調査を行い、サンゴ礁地形や海底の侵食地形に関する観察と記録を行った。また、久高島では高解像度浅海底地形データを用いて、台風の高波の影響と巨礫分布に関する波浪シミュレーションを実施し、過去数千年間の最大規模の高波や台風の規模評価を行った。久米島東岸ハテノハマ周辺海域における調査を行い、堆積物の層序観察とサンプリング、海底の縁脚縁溝系からの岩石試料採取と、それぞれのAMS放射性炭素年代測定を実施した。奄美大島住用湾ではマルチビーム測深調査によって作成した高解像度海底地形図を基に漁民に聞き取りを行い、海底地形を利用した漁について漁業知識を記録する作業を行った。

令和2年度は、スーパーコンピュータ・地球シミュレーターを用いて、高解像度海底地形図を基にした1mグリッド海底地形データを用いた波浪シミュレーションの高度化を実施した。マルチビーム測深海域での現地調査では、石垣島名蔵湾の干潟に広がる海草帯および沈水カルスト凹地にてプッシュコアを用いた掘削を実施し、堆積物コア試料10本を採取した。さらに、研究グループで調査を進めてきた戦跡水中文化遺産USSエモンズにて潜水調査を実施し、特攻機である九八式直協機のランディングギアや燃料タンクなどを新たに発見した。

(3) 成果発表・国際展開・広報活動

平成28年6月にハワイで開催された第13回国際サンゴ礁学会にてプロジェクトの紹介ならびに久米島東部の堡礁型サンゴ礁について高解像度地形を基にした地形学研究を発信した。また、西オーストラリアで開催された第6回国際水中考古学会にて、マルチビーム測深を用いた水

中考古学研究成果を発表した。30年にはグレートバリアリーフ掘削の試料分析結果をNature誌に掲載した¹⁾。沖縄本部半島沖の戦争遺跡エモンズに関する論文発表²⁾を基に、記者発表・シンポジウムなどを開催した。令和1年には地質学のトップジャーナルであるGeology誌への論文掲載³⁾や、令和2年には久高島の研究をNature関連誌Scientific Reportsへ論文掲載した⁴⁾。このほか、国際誌・国内誌への論文掲載、国際学会・国内学会での成果発表や招待講演などを多数実施した。

国際共同研究としては、平成28年8月より奄美大島や久米島など琉球列島のマルチビーム測深地域を対象として、オーストラリア・シドニー大学とともに国際共同研究としてのフィールド調査を開始した。平成29年度はその成果を持ち寄り9月20~21日にシドニー大学にて共同研究ワークショップを開催した。さらに9月22日には公開シンポジウム「日豪サンゴ礁地形学シンポジウム(JASAG)」をシドニー大学で開催し、日豪より30名以上の研究者が集まって研究発表・討議を行った。平成30年9月下旬には、九州大学にて日豪サンゴ礁地形学シンポジウム・ワークショップを開催し、琉球列島とグレートバリアリーフを舞台にした学際研究について議論を深めた。

研究成果の広報としては、「浅海底の戦争遺跡USSエモンズ伝承プロジェクト」をクラウドファンディングとして成立させ、広く一般に認知していただく活動につなげた。また、石垣島屋良部沖海底遺跡に関する研究成果を基に、沖縄県立博物館・美術館特別展「海の沖縄-開かれた海への挑戦」に、マルチビーム測深を基にした1/500海底地形模型を展示した。

また、浅海底の調査手法とその活用に関するシンポジウム「最先端の浅海底地形図づくりとその活用」を平成30年1月20日に九州大学椎木講堂にて開催し、産学官から500名を超える参加者を集めた。平成31年1月12日には「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」、令和2年1月11日には「与那国島からはじまる日本列島」と題した一般公開シンポジウムを九州大学椎木講堂で実施し、それぞれ約400名、350名の参加者を集めた。この他、複数の一般公開シンポジウムやワークショップをJR博多シティ、喜界島、与那国島などで行った。令和2年度には研究課題の総括：「沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021」(2021年3月6日)を、九州大学共進化社会イノベーション施設大会議室とオンラインのハイブリッドで実施した。

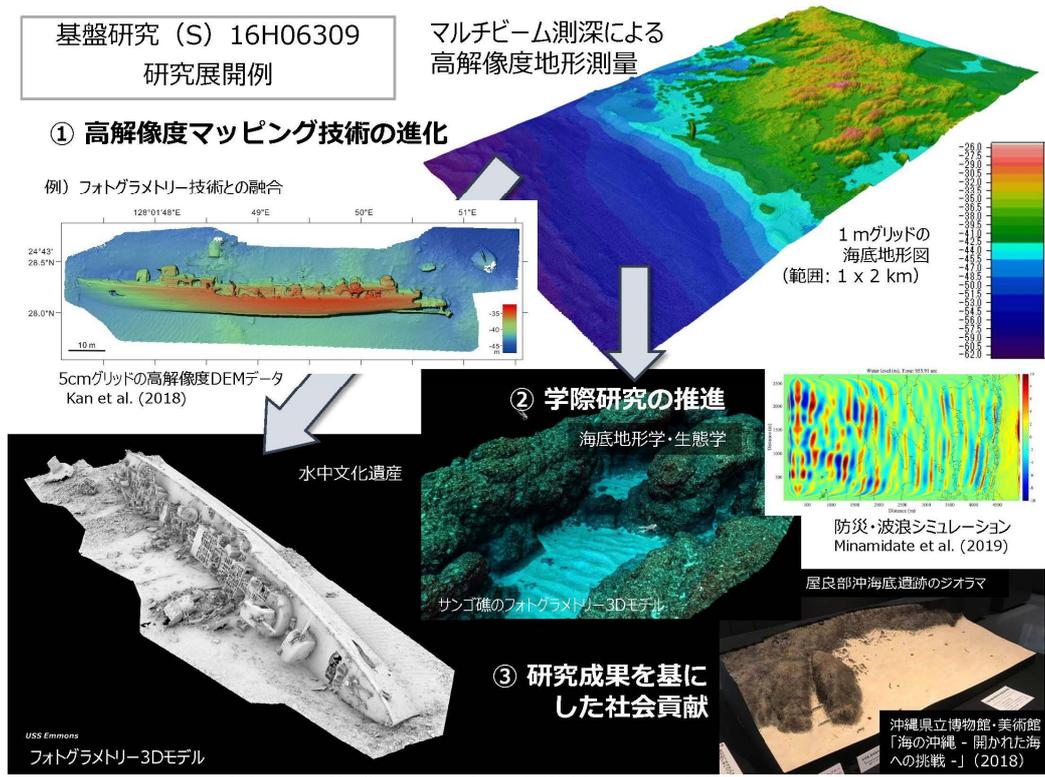
平成28年12月に九州大学に立ち上げた先導的学術研究拠点「浅海底フロンティア研究センター」は、本研究課題の実行および研究成果の社会への実装に大きな役割を果たした。

1) Yokoyama, Y. et al. (2018) *Nature*, 559, 603-607.

2) Kan, H. et al. (2018) *The International Journal of Nautical Archaeology*, 47, 267-280.

3) Fujita, K. et al. (2020) *Geology*, 48, 39-43.

4) Minamidate, K. et al. (2020) *Scientific Reports*, 10, 7218, 10.1038/s41598-020-64100-6



本課題で推進した研究の方向性とその事例(一部)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計95件（うち査読付論文 71件 / うち国際共著 31件 / うちオープンアクセス 31件）

1. 著者名 Minamidate, K., Goto, K., Watanabe, M., Roeber, V., Toguchi, K., Sannoh, M., Nakashima, Y., Kan, H.	4. 巻 10
2. 論文標題 Millennial scale maximum intensities of typhoon and storm wave in the northwestern Pacific Ocean inferred from storm deposited reef boulders	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7218-7218
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-64100-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fujita, K., Sasaki, T., Koyano, S., Chinen, M., Hongo, C., Webster, J. M., Iryu, Y.	4. 巻 22
2. 論文標題 Reefal microbial crusts found in Middle Holocene reef from Okinawa Island, the Ryukyu Archipelago	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Galaxea, Journal of Coral Reef Studies	6. 最初と最後の頁 9-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3755/galaxea.22.1_9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Shimomura, M., Fujita, Y.	4. 巻 4927
2. 論文標題 Seborgia cavernicola sp. nov. from a submarine cave on Okinawa Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan (Crustacea, Amphipoda, Seborgiidae)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Zootaxa	6. 最初と最後の頁 133-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11646/zootaxa.4927.1.9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimomura, M., Fujita, Y.	4. 巻 4895
2. 論文標題 Heteromysoides taramensis, a new species of Mysidae (Crustacea: Mysida) from an anchialine cave on Taramajima Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Zootaxa	6. 最初と最後の頁 135-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yorise, T., Iguchi, A., Yasuda, N., Mizuyama, M., Yoshioka, Y., Miyagi, Aika., Fujita, Y.	4. 巻 7
2. 論文標題 Extensive gene flow among populations of the cavernicolous shrimp at the northernmost distribution margin in the Ryukyu Islands, Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Royal Society Open Science	6. 最初と最後の頁 191731-191731
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1098/rsos.191731	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shimomura, M., Fujita, Y.	4. 巻 133
2. 論文標題 A new species of the genus <i>Heteromysoides</i> Bacescu, 1968 (Mysida, Mysidae) from a submarine cave on Kumejima Island, Ryukyu Islands, southwestern Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Proceedings of the Biological Society of Washington	6. 最初と最後の頁 49-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nishida, K., Chew, Y., Miyairi, Y., Hirabayashi, S., Suzuki, A., Hayashi, M., Yamamoto, Y., Sato, M., Nojiri, Y., Yokoyama, Y.	4. 巻 11
2. 論文標題 Novel reverse radioisotope labelling experiment reveals carbon assimilation of marine calcifiers under ocean acidification conditions, <i>Methods in Ecology and Evolution</i>	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 <i>Methods in Ecology and Evolution</i>	6. 最初と最後の頁 739-750
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2041-210X.13396	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Goff, J.	4. 巻 200
2. 論文標題 Dating tsunami deposits: Present knowledge and challenges	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 <i>Earth-Science Reviews</i>	6. 最初と最後の頁 102971-102971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.earscirev.2019.102971	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Pan, H., Chen, M., Kong, D., Lin, X., Wong, K., Tsai, H., Liu, S., Shi, X., Yokoyama, Y.	4. 巻 8
2. 論文標題 Surface Ocean Hydrographic Changes in the Western Pacific Marginal Seas Since the Early Holocene	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Earth Science	6. 最初と最後の頁 200-200
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/feart.2020.00200	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Brenner, L.D., Linsley, B.K., Webster, J.M., Potts, D., Felis, T., Gagan, M.K., Inoue, M., McGregor, H., Suzuki, A., Tudhope, A., Esat, T., Thomas, A., Thompson, W., Fallon, S., Humblet, M., Tiwari, M. and Yokoyama, Y.	4. 巻 35
2. 論文標題 Coral record of Younger Dryas Chronozone warmth on the Great Barrier Reef	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Paleoceanography and Paleoclimatology	6. 最初と最後の頁 128-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1029/2020PA003962	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Szilagyi, Z., Webster, J.M., Patterson, M.A., Hips, K., Riding, R., Foley, M., Humblet, M., Yokoyama, Y., Liang, L., Gischler, E., Montaggioni, L., Gherardi, D. and Braga, J.C.	4. 巻 429
2. 論文標題 Controls on the spatio-temporal distribution of microbialite crusts on the Great Barrier Reef over the past 30,000 years	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Marine Geology	6. 最初と最後の頁 106312-106312
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.margeo.2020.106312	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Sanborn, K. L., Webster, J. M., Webb, G. E., Braga, J. C., Humblet, M., Nothdurft, L., Patterson, M. A., Dechnik, B., Warner, S., Graham, T., Murphy, R. J., Yokoyama, Y., Obrochta, S.P., Zhao, J., Saavedra, M. S.	4. 巻 397
2. 論文標題 A new model of Holocene reef initiation and growth in response to sea-level rise on the Southern Great Barrier Reef	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Sedimentary Geology	6. 最初と最後の頁 105556-105556
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sedgeo.2019.105556	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono, R., Fuentes, R., Noel, A., Sofian, H. O., Sriwigati, Aziz, N., Pawlik, A.	4. 巻 -
2. 論文標題 Development of bone and lithic technologies by anatomically modern humans during the late Pleistocene to Holocene in Sulawesi and Wallacea.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2020.12.045	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono, R., Fuentes, R., Pawlik, A., Sofian, H. O., Sriwigati, Aziz, N., Alamsyah, N., Yoneda, M.	4. 巻 554
2. 論文標題 Island migration and foraging behaviour by anatomically modern humans during the late Pleistocene to Holocene in Wallacea: New evidence from Central Sulawesi, Indonesia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 90-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2020.03.054	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono, R., Pawlik, A., Fuentes, R.	4. 巻 -
2. 論文標題 Island Migration, Resource Use, and Lithic Technology by Anatomically Modern Humans in Wallacea.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 In Ono, R. and A. Pawlik eds. Pleistocene Archaeology-Migration, Technology, and Adaptation	6. 最初と最後の頁 85-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5772/intechopen.93819	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono, R.	4. 巻 106
2. 論文標題 Technological and Social Interactions between Hunter-gatherers and New Migrants in the Prehistoric (Neolithic) Islands of Southeast Asia and Oceania.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 In Kazunobu Ikeya and Yoshihiro Nishiaki (eds.). Hunter-gatherers in Asia: From Prehistory to the Present. SENRI ETHNOLOGICAL STUDIES	6. 最初と最後の頁 127 -148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Katagiri, C., Ono, R., Nakanishi, Y., Miyagi, H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Research on the Wreck Sites, Sea Routes and the Ships in the Ryukyu Archipelago.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IKUWA6: Shared Heritage: Proceedings of the Sixth International Congress for Underwater Archaeology: 28 November-2 December 2016, Western Australian Maritime Museum Fremantle, Western Australia	6. 最初と最後の頁 19-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakanishi, Y., Ono, R., Katagiri, C., Sakagami, N., and Tetsu, T.	4. 巻 -
2. 論文標題 Pursuing Sustainable Preservation and Valorisation of Underwater Cultural Heritage: Okinawa's Pilot Project for an Underwater Site Museum.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 IKUWA6: Shared Heritage: Proceedings of the Sixth International Congress for Underwater Archaeology: 28 November-2 December 2016, Western Australian Maritime Museum Fremantle, Western Australia	6. 最初と最後の頁 292-300
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久, 海老沢明彦	4. 巻 58
2. 論文標題 沖縄島近海産メカジキの胃内容物中から得られたツノナガチヒロエビ (甲殻亜門: 十脚目: 根鰓亜目: クルマエビ上科: チヒロエビ科)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuna	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岸本和雄, 藤田喜久, 麓 才良, 香村眞徳	4. 巻 47
2. 論文標題 与論島におけるシマチスジノリ <i>Thorea gaudichaudii</i> C. Agardh の生育地追加記録	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nature of Kagoshima	6. 最初と最後の頁 191-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 平林頌子, 横山祐典	4. 巻 59
2. 論文標題 完新統 / 完新世の細分と気候変動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 第四紀研究	6. 最初と最後の頁 129-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4116/jaqua.59.129	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀 信行	4. 巻 40(1)
2. 論文標題 「地図」観の図をつくる：フィールドワークと思想をかけ繋ぐ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 地図情報	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 堀 信行	4. 巻 4
2. 論文標題 自然と人間のはざままで考えること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 災害文化研究	6. 最初と最後の頁 65-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野林太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 「動く」戦略からみたオセアニアにおけるヒトの人類史	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大塚柳太郎 (編) 『動く・集まる』、生態人類学は挑むSession1	6. 最初と最後の頁 95-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野林太郎	4. 巻 -
2. 論文標題 人類史1 発掘からよみとくオセアニア移住史と海洋適応	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 風間計博・梅崎昌裕(編)『オセアニアで学ぶ人類学』	6. 最初と最後の頁 2-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 浩伸, 藤田和彦, 佐藤崇範	4. 巻 22
2. 論文標題 テーマセッション報告 フィールドベースのサンゴ礁研究:高橋達郎先生追悼セッション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本サンゴ礁学会誌	6. 最初と最後の頁 7-18
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤崇範, 菅 浩伸	4. 巻 22
2. 論文標題 高橋達郎先生のサンゴ礁研究:インタビューを通してみえた研究観・教育観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本サンゴ礁学会誌	6. 最初と最後の頁 19-26
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 浩伸	4. 巻 142
2. 論文標題 マルチビーム測深を用いたサンゴ礁よび沿岸浅海域の海底地形探査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 海洋調査	6. 最初と最後の頁 15-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita, K., Yagioka, N., Nakada, C., Kan, H., Miyairi, Y., Yokoyama, Y., Webster, J.M.	4. 巻 48
2. 論文標題 Reef-flat and back-reef development in the Great Barrier Reef caused by rapid sea-level fall during the Last Glacial Maximum (30-17 ka)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geology	6. 最初と最後の頁 39-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1130/G46792.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kakui, K., Fujita, Y.	4. 巻 16
2. 論文標題 Paradoxapseudes shimojiensis sp. nov. (Crustacea: Tanaidacea: Apseudidae) from a submarine limestone cave in Japan, with notes on its chelipedal morphology and sexual system.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Marine Biology Research	6. 最初と最後の頁 195-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/17451000.2020.1720249	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Vila-Concejo, A., Scambary, L., Johansson, L., Duce, S.J., Hamylton, S. Webster, J., Salles, T., Fujita, K., Kan, H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Wave dissipation and lagoon infilling in the southern Great Barrier Reef.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Conference on Coastal Sediments 2019	6. 最初と最後の頁 1020-1028
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1142/9789811204487_0089	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Minamidate, K., Goto, K., Watanabe, M., Roeber, V., Toguhi, K., Sannoh, M., Nakashima, Y., Kan, H.	4. 巻 -
2. 論文標題 Importance of high-resolution 3D topography for wave simulation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of the 2019 CWMD Conference	6. 最初と最後の頁 214-220
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ota, Y., Suzuki, A., Yamaoka, K., Nagao, M., Tanaka, Y., Irizuki, T., Fujiwara, O., Yoshioka, K., Kawagata, S., Kawano, S., Nishimura, O.	4. 巻 20
2. 論文標題 Sediments of Matsushima Bay, northeastern Japan: insights gained from 5 years of sedimentological analysis following the 2011 Tohoku Earthquake-Tsunami.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Geochemistry, Geophysics, Geosystems	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1029/2019GC008381	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura, T., Maeda, A., Tamenori, Y., Suzuki, A., Fujita, K., Kawahata, H.	4. 巻 7
2. 論文標題 Partitioning and chemical environments of minor elements in individual large benthic foraminifera cultured in temperature-controlled tanks.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Frontiers in Earth Science	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/feart.2019.00124	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Esat, T., Miyairi, Y., Aze, T., Siringan, F., Maeda, Y.	4. 巻 455
2. 論文標題 Local marine reservoir age variability at Luzon Strait in the South China Sea during the Holocene.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Nuclear Instruments and Methods in Physics Research Section B: Beam Interactions with Materials and Atoms	6. 最初と最後の頁 171-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.nimb.2018.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Miyairi, Y., Aze, T., Siringan, F., & Maeda, Y.	4. 巻 61(6)
2. 論文標題 Insight into Western Pacific Circulation from South China Sea Coral Skeletal Radiocarbon.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Radiocarbon	6. 最初と最後の頁 1923-1937
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/RDC.2019.145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 大岡素平, 藤田喜久	4. 巻 53
2. 論文標題 浜比嘉島の洞窟内河川から記録されたアシナガヌマエビ	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuana	6. 最初と最後の頁 7 - 9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久, 上野大輔, 鈴木廣志, 渡久地 健	4. 巻 28
2. 論文標題 琉球列島与論島における地下水性ヌマエビ類3種の記録	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Cancer	6. 最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18988/cancer.28.0_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久	4. 巻 51
2. 論文標題 八重山諸島与那国島における地下水性コエビ類2種の新産地記録	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuana	6. 最初と最後の頁 13-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片桐千亜紀	4. 巻 237
2. 論文標題 西欧列強の沈没船遺跡と宮古島 HMSプロビデンス号の調査と研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮古郷土史研究会会報	6. 最初と最後の頁 2-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋そよ	4. 巻 6
2. 論文標題 琉球弧における民俗文化の記録・保全・継承への試み -民俗文化目録・データベース整備状況に関する博物館アンケート調査から-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球アジア文化論集	6. 最初と最後の頁 105-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kan, H., Katagiri, C., Nakanishi, Y., Yoshizaki, S., Nagao, M., Ono, R.	4. 巻 47
2. 論文標題 Assessment and Significance of a World War II battle site: recording the USS Emmons using a High-Resolution DEM combining Multibeam Bathymetry and SfM Photogrammetry	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Nautical Archaeology	6. 最初と最後の頁 267-280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/1095-9270.12301	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yokoyama, Y., Esat, T. M., Thompson, W. G., Thomas, A. L., Webster, J. M., Miyairi, Y., Sawada, C., Aze, T., Matsuzaki, H., Okuno, J., Fallon, S., Braga, J-C., Humblet, M., Iryu, Y., Potts, D. C., Fujita, K., Suzuki, A., Kan, H.	4. 巻 559
2. 論文標題 Rapid glaciation and a two-step sea level plunge into the Last Glacial Maximum	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature	6. 最初と最後の頁 603-607
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41586-018-0335-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Webster, J. M., Braga, J. C., Humblet, M., Potts, D. C., Iryu, Y., Yokoyama, Y., Fujita, K., Bourillot, R., Esat, T. M., Fallon, S., Thompson, W. G., Thomas, A. L., Kan, H., McGregor, H. V., Hinestrosa, G., Obrochta, S. P., Loughheed, B. C.	4. 巻 11
2. 論文標題 Response of the Great Barrier Reef to sea-level and environmental changes over the past 30,000 years	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Nature Geoscience	6. 最初と最後の頁 426-432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41561-018-0127-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Okanishi, M., & Fujita, Y.	4. 巻 4571(1)
2. 論文標題 A comprehensive taxonomic list of brittle stars (Echinodermata: Ophiuroidea) from submarine caves of the Ryukyu Islands, southwestern Japan, with a description of a rare species. Dougaloplus echinatus (Amphiuridae)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zootaxa	6. 最初と最後の頁 73-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yagioka, N., Nakada, C., Fujita, K., Kan, H., Yokoyama, Y., Webster, J. M.	4. 巻 514
2. 論文標題 Depositional environments beneath the shelf-edge slopes of the Great Barrier Reef, inferred from foraminiferal assemblages: IODP Expedition 325	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology	6. 最初と最後の頁 386-397
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.palaeo.2018.10.033	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Humblet M., Potts D.C., Webster J.M., Braga J.C., Iryu Y., Yokoyama Y., Bourillot R., Seard C., Droxler A., Fujita K., Gischler E., Kan H.	4. 巻 174
2. 論文標題 Late glacial to deglacial variation of corallgal assemblages in the Great Barrier Reef, Australia	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Global and Planetary Change	6. 最初と最後の頁 70-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.gloplacha.2018.12.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Osawa, M., Fujita, Y.	4. 巻 4560
2. 論文標題 Submarine cave hermit crabs (Crustacea: Decapoda: Anomura: Paguroidea) from three islands of the Ryukyu Islands, southwestern Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Zootaxa	6. 最初と最後の頁 463-482
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11646/zootaxa.4560.3.3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川均	4. 巻 64巻2号
2. 論文標題 地理学の視点から見たサンゴ礁海岸の開発と保全	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安藤将吾	4. 巻 27
2. 論文標題 沖縄本島北東海岸で見られる海草海藻群落の分布状況	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国土館大学地理学報告	6. 最初と最後の頁 37-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡久地 健	4. 巻 64巻2号
2. 論文標題 サンゴ礁漁場の多様性とその価値 奄美沖縄の漁師に学ぶ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 24-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saito, T., Fujita, Y.	4. 巻 4450
2. 論文標題 A new species of the stenopodidean shrimp genus <i>Odontozona</i> Holthuis, 1946 (Crustacea: Decapoda: Stenopodidea: Stenopodidae) from the Ryukyu Islands, Indo-West Pacific	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Zootaxa	6. 最初と最後の頁 458-472
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11646/zootaxa.4450.4.4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Inoue, M., Nakamura, T., Tanaka, Y., Suzuki, A., Yokoyama, Y., Kawahata, H., Sakai, K., and Gussone, N.	4. 巻 235
2. 論文標題 A simple role of coral-algal symbiosis in coral calcification based on multiple geochemical tracers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geochimica et Cosmochimica Acta	6. 最初と最後の頁 76-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.gca.2018.05.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Maeda, A., Fujita, K., Horikawa, K., Suzuki, A., Ohno, Kawahata, H.	4. 巻 143
2. 論文標題 Calibration between temperature and Mg/Ca and oxygen isotope ratios in high-magnesium calcite tests of asexually reproduced juveniles of large benthic foraminifers	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Marine Micropaleontology	6. 最初と最後の頁 63-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marmicro.2018.07.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Iwasaki, S., Suzuki, A., Iguchi, A., Sasaki, O., Kano, H., Ohno, Y., Enomoto, K.	4. 巻 37
2. 論文標題 Effect of seawater turbulence on formation of coral primary polyp skeletons	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Coral Reefs	6. 最初と最後の頁 939-944
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00338-018-1719-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kakui, K. & Fujita, Y.	4. 巻 6:e4720
2. 論文標題 Haimormus shimojiensis, a new genus and species of Pseudozeuxidae (Crustacea: Tanaidacea) from a submarine limestone cave in Northwestern Pacific	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PeerJ	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7717/peerj.4720, 2018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Li, Z., Chen, M-T., Lin, D-C., Wang, H., Shi, X., Liu, S., Yokoyama, Y., Yamamoto, M., Shen, C-C., Mii, H-S.	4. 巻 482
2. 論文標題 Holocene surface hydroclimate changes in the Indo-Pacific warm pool	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitamura, A., Ito, M., Sakai, S., Yokoyama, Y., Miyairi, Y.	4. 巻 403
2. 論文標題 Identification of tsunami deposits using a combination of radiometric dating and oxygen-isotope profiles of articulated bivalves	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Marine Geology	6. 最初と最後の頁 57-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.margeo.2018.04.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Not, C., Thibodeau, B., Yokoyama, Y.	4. 巻 19
2. 論文標題 Incorporation of Mg, Sr, Ba, U, and B in High-Mg Calcite Benthic Foraminifers Cultured Under Controlled pCO2	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Geochemistry, Geophysics, Geosystems	6. 最初と最後の頁 83-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/2017GC007225	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Sawada, C., Takada, K.	4. 巻 364
2. 論文標題 Reducing the age range of tsunami deposits by 14C dating of rip-up clasts	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Sedimentary Geology	6. 最初と最後の頁 334-341
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.sedgeo.2017.09.008	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ando, M., Kitamura, A., Tu, Y., Ohashi, Y., Imai, T., Nakamura, M., Ikuta, R., Miyairi, Y., Yokoyama, Y., Shishikura, M.	4. 巻 722
2. 論文標題 Source of high tsunamis along the southernmost Ryukyu trench inferred from tsunami stratigraphy	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Tectonophysics	6. 最初と最後の頁 265-276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.tecto.2017.11.007	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Cyronak, T., Andersson, A.J., Suzuki, A., (25人省略, 28人中25番目) et al.	4. 巻 13(1)e0190872
2. 論文標題 Taking the metabolic pulse of the world's coral reefs	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Bell, T., Iguchi, A., Suzuki, A., Seki, A., Yokoyama, Y.	4. 巻 52
2. 論文標題 Testing possible relationships between Acropora digitifera genes, seawater chemistry and skeletal elements	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 GEOCHEMICAL JOURNAL	6. 最初と最後の頁 263-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2343/geochemj.2.0511	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西裕見子, 片桐千亜紀, Angeliki G. Simosi, Panagiota Galiatsatou, Anastasia Mitsopoulou, Ilias Kouvelas, Kostas Kaldis	4. 巻 第65巻第3号
2. 論文標題 ギリシャ水中文化遺産保護	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 考古学研究	6. 最初と最後の頁 11-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 菅 浩伸	4. 巻 Vol.88, No.6
2. 論文標題 黒潮がつくったサンゴの楽園：沖縄	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 582-587
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中西裕見子, 片桐千亜紀, 菅 浩伸, 坂上憲光, 小野林太郎, 島袋綾野	4. 巻 37号
2. 論文標題 沖縄海域における海底遺跡ミュージアム構想の実現に向けた屋良部沖海底遺跡での実践	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南島考古	6. 最初と最後の頁 49-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐千亜紀	4. 巻 No.718
2. 論文標題 水中考古学の普及啓発とその取り組み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 月間 考古学ジャーナル臨時増刊	6. 最初と最後の頁 27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Miklavic, B., Yokoyama, Y., Urata, K., Miyairi, Y., Kan, H.	4. 巻 471
2. 論文標題 Holocene relative sea level history from phreatic overgrowths on speleothems (POS) on Minami Daito Island, Northern Philippine Sea	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Quaternary International	6. 最初と最後の頁 359-368
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quaint.2017.09.032	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita K., Aruga K., Humblet M., Nagai K.	4. 巻 27
2. 論文標題 Depositional environments of well-sorted detrital limestone from the Minatogawa Formation in the southern part of Okinawa Island, the Ryukyu Archipelago, Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Island Arc	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/iar.12247	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤真裕子, 森 愛, 本郷宙軌, 浅海竜司, 宮入陽介, 横山祐典, 藤田和彦	4. 巻 20
2. 論文標題 星砂の磨耗度と放射性炭素年代に基づく瀬底島海浜堆積物の生産年代と運搬・堆積過程	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本サンゴ礁学会誌	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ono, R., F. Aziz, Oktaviana, A. A., Prastiningtyas, D., Ririmasse, M., Iriyanto, N., Zesse, I., Y. Hisa and M. Yoneda	4. 巻 31
2. 論文標題 Development of Regional Maritime Networks during the Early Metal Ages in Northern Maluku Islands: A view from excavated pottery and glass ornaments.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Island and Coastal Archaeology	6. 最初と最後の頁 98-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15564894.2017.1395374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Ono, R., F. Aziz, Oktaviana, A. A., Ririmasse, M., Iriyanto, N., Zesse, I. and Tanaka, K.	4. 巻 35
2. 論文標題 Development of pottery making tradition and maritime networks during the Early Metal Ages in Northern Maluku Islands.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 AMERTA, Journal Penelitian dan Pengembangan Arkeologi	6. 最初と最後の頁 109-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Obuchi, M., Fujita, Y.	4. 巻 22
2. 論文標題 Comanthus scintillus, a new species of featherstar (Echinodermata: Crinoidea: Comatulida: Comatulidae) from southern Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Species Diversity	6. 最初と最後の頁 201-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久	4. 巻 37
2. 論文標題 沖縄島におけるアサヒガニモドキの記録	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuana	6. 最初と最後の頁 1-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Miyairi, Y. and Aze, T.	4. 巻 32
2. 論文標題 Short-term fluctuations in regional radiocarbon reservoir age recorded	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J.Quaternary Sci	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jqs.2923	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Duttona, A., Rubin, K., McLean, N., Bowring, J., Bard, E., Edwards, R.L., Henderson, G.M., Reid, M.R., Richards, D.A., Sims, K.W.W., Walker, J.D., Yokoyama, Y.	4. 巻 39
2. 論文標題 Data reporting standards for publication of U-series data for geochronology and timescale assessment in the earth sciences	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quaternary Geochronology	6. 最初と最後の頁 142-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quageo.2017.03.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Miyairi, Y., and Aze, T.	4. 巻 18
2. 論文標題 Multidecadal oceanographic changes in the western Pacific detected through high-resolution bomb-derived radiocarbon measurements on corals	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geochemistry, Geophysics, Geosystems	6. 最初と最後の頁 1608-1617
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/2017GC006854	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishizawa, T., Goto, K., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Sawada, C., Nishimura, Y., and Sugawara, D.	4. 巻 41
2. 論文標題 Sequential radiocarbon measurement of bulk peat for high-precision dating of tsunami deposits	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quaternary Geochronology	6. 最初と最後の頁 202-210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quageo.2017.05.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Bell, T., Nishida, K., Ishikawa, K., Suzuki, A., Nakamura, T., Sakai, K., Ohno, Y., Iguchi, A., Yokoyama, Y.	4. 巻 484
2. 論文標題 Temperature-controlled culture experiments with primary polyps of coral <i>Acropora digitifera</i> : Calcification rate variations and skeletal Sr/Ca, Mg/Ca, and Na/Ca ratios	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology	6. 最初と最後の頁 129-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.palaeo.2017.03.016	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kubota, K., Yokoyama, Y., Ishikawa, T., Suzuki, A., and Ishii, M.	4. 巻 7
2. 論文標題 Rapid decline in pH of coral calcification fluid due to incorporation of anthropogenic CO ₂	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7694-7694
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-017-07680-0	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Miyairi, Y., Aze, T., Siringan, F., Maeda, Y.	4. 巻 4
2. 論文標題 Radiocarbon variability recorded in coral skeletons from the northwest of Luzon Island, Philippines	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geoscience Letters	6. 最初と最後の頁 15-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40562-017-0081-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Sanborn, K. L., Webster, J. M., Yokoyama, Y., Dutton, A., Braga, J. C., Clague, D. A., Paduan, J. B., Wagner, D., Rooney, J. J., Hansen, J. R.	4. 巻 175
2. 論文標題 New evidence of Hawaiian coral reef drowning in response to meltwater pulse-1A	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Quaternary Science Reviews	6. 最初と最後の頁 60-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.quascirev.2017.08.022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawakubo, Y., Alibert, C., Yokoyama, Y.	4. 巻 32
2. 論文標題 A Reconstruction of Subtropical Western North Pacific SST Variability Back to 1578, Based on a Porites Coral Sr/Ca Record from the Northern Ryukyus, Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Paleoceanography	6. 最初と最後の頁 1352-1370
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/2017PA003203	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Katagiri, C., Nakanishi, Y., Ono, R., Miyagi, H.	4. 巻 1
2. 論文標題 Basic Studies on the Western Shipwrecks Discovered in the Ryukyu Archipelago and Their Influence on Modern Society	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of the 3rd Asia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage.	6. 最初と最後の頁 399-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshimura, T., Tamenori, Y., Suzuki, A., Kawahata, I., Iwasaki, N., Hasegawa, H., Nguyen, L. T., Kuroyanagi, A., Yamazaki, T., Kuroda, J., Ohkouchi, N.	4. 巻 202
2. 論文標題 Altrivalent substitution of sodium for calcium in biogenic calcite and aragonite	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Geochimica et Cosmochimica Acta	6. 最初と最後の頁 21-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.gca.2016.12.003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Maeda, A., Fujita, K., Horikawa, K., Suzuki, A., Yoshimura, T., Tamenori, Y., Kawahata, H.	4. 巻 122
2. 論文標題 Evaluation of oxygen isotope and Mg/Ca ratios in high-magnesium calcite from benthic foraminifera as a proxy for water temperature	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Geophysical Research: Biogeosciences	6. 最初と最後の頁 185-199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/2016JG003587	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sekizawa, A., Uechi, H., Iguchi, A., Nakamura, T., Kumagai, N.H., Suzuki, A., Sakai, K., Nojiri, Y.	4. 巻 122
2. 論文標題 Intraspecific variations in responses to ocean acidification in two branching coral species	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Marine Pollution Bulletin	6. 最初と最後の頁 282-287
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marpolbul.2017.06.061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takada, N., Suzuki, A., Ishii, H., Hironaka, K., Hironiwa, T.	4. 巻 7
2. 論文標題 Thermoluminescence of coral skeletons: a high-sensitivity proxy of diagenetic alteration of aragonite	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 17969-17969
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.marpolbul.2017.06.061	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐千亜紀, 徳嶺里絵, 河野礼子, 土肥直美	4. 巻 87
2. 論文標題 更新世の墓域は語る	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 岩波『科学』	6. 最初と最後の頁 559-564
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 浩伸, 中島洋典	4. 巻 62
2. 論文標題 太平洋・インド洋の環礁国における土地利用と国土の脆弱性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地理	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菅 浩伸	4. 巻 84
2. 論文標題 人類のフロンティア「浅海底」を開拓する	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 1213-1215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡久地 健, 藤田喜久, 中井達郎, 長谷川 均, 高橋そよ	4. 巻 62
2. 論文標題 礁前面の凹地「カタマ」の漁場としての生物地形学的評価	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 沖縄地理	6. 最初と最後の頁 52-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久, 水山克	4. 巻 33
2. 論文標題 モモイロドウクツガザミの沖縄島と伊江島からの初記録	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuana	6. 最初と最後の頁 19-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤田喜久, 大澤正幸, 久保弘文	4. 巻 34
2. 論文標題 宮古島与那覇前浜の潮下帯砂底環境から得られた十脚目甲殻類	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Fauna Ryukyuana	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菅 浩伸	4. 巻 -
2. 論文標題 モルディブ諸島にみる環礁立国崩壊の危険性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 温暖化と自然災害	6. 最初と最後の頁 59-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計156件 (うち招待講演 43件 / うち国際学会 43件)

1. 発表者名 Minamidate, K., Goto, K., Kan, H.
2. 発表標題 Numerical method for constraining maximum local size of paleotsunamis using storm boulder deposits
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山祐典, Purcell Anthony, 石輪健樹
2. 発表標題 Gauging Quaternary Sea Level Changes using various sea level indicators and GIA model
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平林頌子, 横山祐典, 鈴木淳, 宮入陽介, 阿瀬貴博, Siringan Fernando, 前田保夫, 菅浩伸
2. 発表標題 Insight to Western Pacific circulation from coral skeletal radiocarbon
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田和彦
2. 発表標題 低緯度沿岸生態系の生物環境指標としての有孔虫
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Online (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 横山 祐典, 宮入 陽介, 阿瀬 貴博
2. 発表標題 第四紀研究における高精度—高密度放射性炭素年代測定的重要性
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020, Online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 平林頌子, 横山祐典, 宮入陽介, Lauren T. Toth, Richard B. Aronson, 菅浩伸
2. 発表標題 サンゴ礁の海浜沖に見られる海草帯形成を指示する堆積物-久米島東部サンゴ礁において-
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2020 , Online (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 菅 浩伸
2. 発表標題 空中写真を用いた沿岸巨礫の移動過程の追跡：沖縄県久高島の例
3. 学会等名 日本堆積学会2020年オンライン大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田和彦
2. 発表標題 礫性微生物皮殻：サンゴ礁のダークサイド
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会第23回大会, オンライン
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 平林頌子, 横山祐典, 宮入陽介, Lauren T. Toth, Richard B. Aronson, 菅 浩伸
2. 発表標題 琉球列島における古海藻帯指標堆積物に関する研究
3. 学会等名 2021年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村 颯, 市原季彦, 菅 浩伸
2. 発表標題 与那国島における海食崖の後退過程 高解像度三次元モデルを用いた地形解析
3. 学会等名 2021年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小野林太郎, Pawlik, A., Fuentes, R.
2. 発表標題 サビエンスによるウォーレシアへの初期移住年代と動物・石器利用
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第9回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野林太郎, Fuentes, R., 中谷文美, 金谷美和, 上羽陽子
2. 発表標題 タケ仮説再考 ウォーレシアにおける植物利用からみた石器の機能論
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第10回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中谷文美, 上羽陽子, 山岡拓也, 金谷美和, Fuentes, R., 小野林太郎
2. 発表標題 植物資源の多面的利用 用途に適した素材特性の理解と文化的選好をめぐって
3. 学会等名 文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究2016-2020：パレオアジア文化史学第10回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 沿岸域の学際研究と浅海底フロンティア研究センターの活動
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋そよ, 浦田健作, 渡久地健
2. 発表標題 市民調査が拓く松田カルストと地下水系 - 沖縄県宜野座村の事例から -
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 木村 颯, 市原季彦, 菅 浩伸
2. 発表標題 与那国島における海食崖・海食洞の地形解析
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中 圭, 濱 侃, 長谷川 均, 菅 浩伸
2. 発表標題 空中写真・衛星画像を用いたサンゴ洲島における基底地形の把握
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 横山祐典, 宮入陽介, 平林頌子, 菅 浩伸
2. 発表標題 サンゴ礁未固結堆積物コアを用いた浅礁湖の堆積過程と海草帯の発達史
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山祐典, 石沢成美, 宮入陽介, 阿瀬貴博, 平林頌子, 菅 浩伸
2. 発表標題 石垣島名蔵湾コア中の鍾乳石の年代と最終氷期の海水準
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤田和彦, 伊藤真裕子, 清島璃乃, 佐藤惇樹, 百目鬼巧海, 儀間幸太, 中谷巧実, 岩田良哉, 大城夏生, 喜久永りこ, 佐々木 徹, 小谷野将, 下地勝大, 榎 啓佑
2. 発表標題 浅海底地形学と浅海底の堆積学・古環境学・地球生物学との融合
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤和久, 渡部真史, 南館健太, 菅 浩伸
2. 発表標題 高精度地形・地質データを用いた沿岸波浪災害研究の5年間の成果と今後の課題
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 菅 浩伸
2. 発表標題 台風石を活用した琉球海溝中部における古地震の最大規模の数値的推定
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 渡部真史, 後藤和久, 菅 浩伸
2. 発表標題 数値解析に基づくサンゴ礁地形による波浪減衰過程の検証
3. 学会等名 沿岸域の先進的学際研究ワークショップ2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Minamidate, K., Goto, K., Watanabe, M., Roeber, V., Toguchi, K., Sannoh, M., Nakashima, Y., Kan, H.
2. 発表標題 Estimation of past typhoon and tsunami magnitudes along the Ryukyu Islands using information from coastal boulders
3. 学会等名 2019 AGU Fall Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamidate, K., Goto, K., Watanabe, M., Roeber, V., Toguchi, K., Sannoh, M., Nakashima, Y., Kan, H.
2. 発表標題 Importance of high-resolution 3D topography for wave simulation
3. 学会等名 The 2019 International Conference on Climate Change, Disaster Management and Environmental Sustainability (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Sano, W., Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Fujita, K., Toth, T., Aronson, R.B., Kan, H.
2. 発表標題 Reconstructing sedimentation process of lagoon sediment in the Eastern Kume island, Ryukyus.
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Minamidate, K., Goto, K., Watanabe, M., Roeber, V., Toguchi, K. Sannoh, M., Nakashima, Y., Kan, H.
2. 発表標題 Numerical modeling of wave propagation on the coral reef based on high resolution 3D topography.
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yamamura, B., Fujita, K., White, M., Ishiguro, K., Kan, H.
2. 発表標題 Distribution of large benthic foraminifers in one of Majuro 's Conservation Areas -Drenmeo Island.
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸, 堀 信行, 中井達郎, 横山祐典, 藤田和彦, 長谷川 均, 中島洋典, 浦田健作, 鈴木 淳, 長尾正之, 後藤和久
2. 発表標題 浅海底地形学：新たな分野の開拓と展望
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 美保, 渡久地 健, 堀 信行, 木村 颯, 今井 志彦, 中島 洋典, 名島 弥生, 菅 浩伸
2. 発表標題 奄美大島住用湾の海底地形 マルチビーム測深による可視化
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村 颯, 浦田健作, 長谷川 均, 市原季彦, 鈴木 淳, 堀 信行, 菅 浩伸
2. 発表標題 与那国島南海岸の海蝕地形
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山祐典, Esat, T.M., Thompson, W.G., Thomas, A.L., Jody W Webster, J.W., 宮入陽介, 沢田近子, 阿瀬貴博, 松崎浩之, 奥野淳一, Fallon, S., Braga, J-C, Humblet, M., 井龍康文, Potts, D.C., 藤田和彦, 鈴木 淳, 菅 浩伸
2. 発表標題 最終氷期最盛期とそれに続く急激な氷床成長および崩壊と海水準変動
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 渡部真史, Volker Roeber, 渡久地健, 三納正美, 中島洋典, 菅浩伸
2. 発表標題 高解像度3次元地形を用いたリーフ地形上での波浪変形・伝搬過程の数値的解明
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 平林 頌子, 横山 祐典, 鈴木 淳, Esat Tezer, 宮入 陽介, 阿瀬 貴博, Siringan Fernando, 前田 保夫, 菅 浩伸
2. 発表標題 ルソン海峡および琉球列島における完新世のローカル海洋リザーバー年代変動
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 平林 頌子, 横山祐典, 宮入陽介, Lauren T. Toth, Richard B. Aronson, 菅 浩伸
2. 発表標題 サンゴ礁海草帯の堆積過程 琉球列島久米島の東部サンゴ礁における事例
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中 圭, 濱 侃, 長谷川 均, 菅 浩伸
2. 発表標題 久米島ハテノハマ洲島の近年の地形変化 - リモートセンシングによる解析
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅 浩伸, 木村 颯, 堀 信行, 浦田健作, 市原季彦, 鈴木 淳, 藤田喜久, 中島洋典, 片桐千亜紀, 中西裕見子
2. 発表標題 与那国島沿岸の海底地形: マルチビーム測深と潜水調査による浅海底地形研究
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村 颯, 市原季彦, 浦田健作, 菅 浩伸
2. 発表標題 与那国島における中新統堆積岩の海食崖地形
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井達郎, 長谷川均
2. 発表標題 喜界島の離水縁溝 - 縁脚系について UAV画像による考察
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長谷川 均, 中井達郎, 安藤将吾
2. 発表標題 沖縄島北東海岸における藻場の急激な時空間変化
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀 信行
2. 発表標題 サンゴ礁研究を豊かにするために
3. 学会等名 2020年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 平林頌子, 横山祐典, 宮入陽介, Toth, L.T., Aronson, R.B., 菅 浩伸
2. 発表標題 堆積物コアを用いた久米島東部における海草帯の堆積過程の復元
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会第22回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 フィールドワークを基にしたサンゴ礁地形研究
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会第22回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀 信行
2. 発表標題 礁形成モデルと簡易測深機による検証：太平洋とインド洋を中心に
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会第22回大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 渡部真史, Volker Roeber, 渡久地健, 三納正美, 中島洋典, 菅浩伸
2. 発表標題 沖縄県久高島の沿岸巨礫分布に基づく台風・波浪の最大強度推定
3. 学会等名 日本堆積学会2019年大阪大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 菅浩伸
2. 発表標題 沖縄県久高島の沿岸巨礫を用いた琉球海溝中部の津波規模制約
3. 学会等名 2019年度津波堆積物研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 最先端の浅海底地形図づくりとその活用
3. 学会等名 鹿児島大学 国際島嶼教育研究センター シンポジウム「新たな技術で喜界島の未来を考える」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 どなんの海底地形 すみきった海のダイナミックな海底景観
3. 学会等名 与那国島シンポジウム「海底地形図で何が分かる?できる?」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀 信行
2. 発表標題 「ゆいむん」の世界観:「ゆんぬ」(与論島)からの発想
3. 学会等名 沖縄国際大学南島文化研究所(第30回南島研セミナー)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 堀 信行
2. 発表標題 サンゴ礁地形の民俗分類とその分布
3. 学会等名 与論郷土研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 西欧列強の沈没船遺跡と宮古島
3. 学会等名 宮古島郷土史研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋そよ
2. 発表標題 ことばの分析から自然観を読みとく 伊良部島の素潜り漁師さんが教えてくれたこと
3. 学会等名 宮古島市総合博物館友の会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋そよ
2. 発表標題 「魚」とは、なにか？ーことばから考える自然と人間のかかわりー
3. 学会等名 国頭村主催「やんばる学シンポジウム」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋そよ
2. 発表標題 素潜り漁師と魚売りの不確実性を乗り越えるための生活戦略：沖縄県伊良部島のサンゴ礁漁撈文化の事例から
3. 学会等名 九州・沖縄地区研究懇談会（九州人類学研究会）・沖縄民俗学会合同研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋そよ
2. 発表標題 Land Grant University における市民参加型フィールドサイエンス教育研究の可能性
3. 学会等名 金沢星稜大学学会 人文学部講演会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤崎慎吾
2. 発表標題 "最も神高い島"与那国
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平林頌子
2. 発表標題 日本列島へ向かう黒潮 サンゴが記録するその変動
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 黒潮が洗う与那国島の多様かつ壮大な海底地形
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田喜久
2. 発表標題 黒潮がもたらす沖縄の水圏生物の多様性
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒谷邦雄
2. 発表標題 海を渡る昆虫たち-小さな冒険者の脅威の分散力-
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 海を渡った人類と渡難(どうなん)の島の考古学
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村松 稔
2. 発表標題 「3万年前の航海」体験記 こうやって黒潮を越えた！
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター一般公開シンポジウム 与那国島からはじまる日本列島
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐野 亘, 藤田和彦, 平林頌子, 横山祐典, 宮入陽介, Tosh, L.T., Aronson, R.B., 菅 浩伸
2. 発表標題 久米島東部におけるサンゴ礁海草帯の形成過程
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 藤田和彦, 佐藤淳樹, 儀間幸太
2. 発表標題 ハテナハマ堆積物コアの分析結果, 久米島東部におけるサンゴ礁海草帯の形成過程
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平林頌子, 横山祐典, 阿瀬貴博, 宮入陽介, 菅 浩伸
2. 発表標題 貝試料を用いたウラン系列年代測定法の再検討
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南館健太, 後藤和久, 菅 浩伸
2. 発表標題 高波由来の沿岸巨礫を用いた津波リスク評価法の提案
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡部真史
2. 発表標題 スーパーコンピュータを活用した浅海底サンゴ礁地形での大規模波浪計算
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 中井達郎, 長谷川均
2. 発表標題 喜界島の離水縁溝－縁脚系について ~UAV画像による考察~
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yamamura, B., Kimura, H., Sano, W., Hirabayashi, S., Imai, Y., Ishiguro, K., Kan, H.
2. 発表標題 Mapping and comparing the geomorphological environments of designated conservation area and urban city in Majuro using drone data
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 木村颯, 市原季彦, 浦田健作, 菅浩伸
2. 発表標題 RTK-UAVを用いて作成した三次元モデルから見た与那国島の八重山層群海蝕崖地形について
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅 浩伸, 木村 颯, 片桐千亜紀, 中西裕見子, 藤田喜久, 市原季彦, 浦田健作, 堀 信行
2. 発表標題 与那国島沿岸の海底地形
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菅 浩伸, 堀 信行, 中井達郎, 横山祐典, 藤田和彦, 長谷川 均, 中島洋典, 浦田健作, 鈴木 淳, 後藤和久
2. 発表標題 浅海底地形学の開拓へ向けて: 展望と課題
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中美保, 名島弥生, 渡久地健, 木村 颯, 今井志彦, 中島洋典, 堀 信行, 菅 浩伸
2. 発表標題 マルチビーム測深技術で可視化した奄美大島住用湾の漁場地形に関する考察
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋そよ
2. 発表標題 「 ” ヤギの眠る海 ” で漁をする」 再考：サンゴ礁資源利用をめぐる漁場選択とリスク回避
3. 学会等名 沿岸域の環境科学ワークショップ
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kan, H.
2. 発表標題 New survey visualization: merging photogrammetric 3D model with a multibeam bathymetry
3. 学会等名 International Interdisciplinary Field Workshop of Maritime Robotics and Applications -Breaking The Surface (BTS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kan, H., Katagiri, C., Nakanishi, Y., Yoshizaki, S., Nagao, M., Ono, R.
2. 発表標題 High-resolution seafloor DEM generation by combining multibeam bathymetry and SfM photogrammetry: an example from a World War II wreck USS Emmons
3. 学会等名 American Geophysical Union 2018 Fall Meeting (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamafune, K., Kan, H.
2. 発表標題 New survey visualization: merging photogrammetric textures into a multi-beam bathymetry 3D map
3. 学会等名 Conference on Historical and Underwater Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nakanishi, Y., Kan, H., Katagiri, C., Yoshizaki, S., Nagao, M., Ono, R.
2 . 発表標題 Assessment and significance of a World War II battle site: recording the USS Emmons using a high-resolution DEM combining multibeam bathymetry and SfM photogrammetry,
3 . 学会等名 International Journal of Nautical Archaeology Webinar Series, No.1: The Archaeology of World War Battleships (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kan, H., Yamafune, K. and JSPS 16H06309 Co-researchers
2 . 発表標題 Novel Mapping of Coral Reef Seafloor: merging Photogrammetric 3D Model with a Multibeam Bathymetry
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hirabayashi, S.
2 . 発表標題 Western Pacific Holocene Variability reconstructed from Coral Skeletal Radiocarbon and Uranium-series Nuclides
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Iguchi, A.
2 . 発表標題 A test of the Abundant Centre Model: a case study of Tropical Organisms in Northern Peripheral Area.
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Fujita, K.
2 . 発表標題 Holocene coastal environmental changes in the Ryukyu Islands
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Duce, S., Joyce, K., Leahy, S., Leon, J. and Maier, S.
2 . 発表標題 Principles, Practice and Possibilities: using Drones for Coral Reef Research.
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Vila-Concejo, A., Duce, S., Webster, J., Salles, T., Scanbary, L., Johansson, L. and Hamylton, S.
2 . 発表標題 Coral Reef Morphodynamics and Lagoon Infilling.
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Yokoyama, Y., Webster, J., Fujita, K., Kan, H. and Exp 325 Scientists
2 . 発表標題 The Great Barrier Reef Environmental Change during the last 30,000 years
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2018 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Vila-Concejo, A.
2. 発表標題 Steps to improve gender diversity in coastal geoscience and engineering.
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Ariyasu, E.
2. 発表標題 Estimate shallow-water depth by satellite data in Kume Island.
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fujita, K.
2. 発表標題 Long-term production, transport and depositional process of surface sediments around Hatenuhama.
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hama, A., Tanaka, K., Kan, H. and Hasegawa, H.
2. 発表標題 Use of Multi-platform, Multi-temporal Remote Sensing Data for Sand Cays Monitoring
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Hasegawa, H., Tanaka, K., Hama, A. and Kan, H.
2 . 発表標題 Hatenohama Sand Cay Maps: Using Drones to Create Orthorectified Maps
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Tanaka, K., Hama, A., Kan, H., and Hasegawa, H.
2 . 発表標題 Reconstruction of topography on shallow seafloor around Hatenuhama Sand Cay using aerial photographs
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Tanaka, M., Najima, Y., Toguchi, K., Hori, N., Kimura, H., Imai, Y., Nakashima, Y. and Kan, H.
2 . 発表標題 Seafloor topography of fishing ground in Amami Sumiyo bay by multibeam echo-sounder survey
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Sano, W., Hirabayashi, S., Yokoyama, Y., Miyairi, Y., Fujita, K., Toth, L. T., Aronson, R. B. and Kan, H.
2 . 発表標題 Study on development of seagrass bed in coral reefs using sediment cores obtained from Kume island
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018 (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Kan, H., Katagiri, C., Nakanishi, Y., Yoshizaki, S., Nagao, M., Ono, R.
2. 発表標題 High-resolution seafloor DEM of World War II wreck site by combining multibeam bathymetry and SfM photogrammetry
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横山 祐典
2. 発表標題 シングルステージ加速器質量分析装置
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中 圭, 濱 侃, 菅 浩伸, 長谷川 均
2. 発表標題 マルチプラットフォームリモートセンシングに基づく洲島の形状変化モニタリング
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤真裕子, 清島璃乃, 菅 浩伸, 宮入陽介, 横山祐典, 藤田和彦
2. 発表標題 堆積物特性と放射性炭素年代に基づく久米島ハテナハマ周辺サンゴ礁堆積物の生産・運搬・堆積
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石沢 成美, 横山 祐典, 宮入 陽介, 阿瀬 貴博, 平林 頌子
2. 発表標題 U-Th年代・放射性炭素年代測定法を用いた熊本県球泉洞の石筍の年代決定
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 三輪 亘, オブラクタ スティーブン, 白井 厚太郎, 横山 祐典, 宮入 陽介, ウェブスター ジョーディー, ハイン アルバート
2. 発表標題 堆積相解析によるグレートバリアリーフの形成年代特定
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中澤 文華, 芦 寿一郎, 大村 亜希子, 宮入 陽介, 横山 祐典
2. 発表標題 Estimation of the sea floor events by radiocarbon dating of total organic carbon contained in marine sediment
3. 学会等名 日本地球惑星科学連合2018年大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 マルチビーム測深等による精密海底地形図の作成とそれを基にした学際研究
3. 学会等名 福岡地理学会2019年冬季例会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐野 亘, 平林頌子, 横山祐典, 宮入陽介, 藤田和彦, Toth, L.T., Aronson, R.B., 菅 浩伸
2. 発表標題 久米島東部におけるサンゴ礁ラグーンの堆積過程
3. 学会等名 2019年日本地理学会春期学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中美保, 渡久地 健, 堀 信行, 木村 颯, 今井志彦, 中島洋典, 名島弥生, 菅 浩伸
2. 発表標題 マルチビーム測深によって明らかにした奄美大島住用湾の海底地形
3. 学会等名 2019年日本地理学会春期学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 長谷川均
2. 発表標題 地理学の視点から見たサンゴ礁海岸の開発と保全
3. 学会等名 2018年日本地理学会秋季学術大会 シンポジウム「サンゴ礁保全の現在とこれから」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡久地健
2. 発表標題 漁師のサンゴ礁空間認識 「場」の多様性とその価値
3. 学会等名 2018年日本地理学会秋季学術大会 シンポジウム「サンゴ礁保全の現在とこれから」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅 浩伸, 藤田 和彦, 長谷川 均, 堀 信行, 横山 祐典, 有安 恵美子, 中島 洋典, 長尾 正之, Stephanie J Duce, Ana Vila-Conceja
2. 発表標題 高解像度マルチビーム測深を用いた久米島東部の堡礁および島棚の海底地形
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会21回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田喜久, 岡西政典, 水山克, 下村通誉, 伊勢優史, 井口亮
2. 発表標題 琉球列島の海底洞窟における動物相と洞内における生態分布
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会21回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田和彦, 伊藤真裕子, 清島璃乃, 宮入陽介, 横山祐典, 菅 浩伸
2. 発表標題 琉球列島サンゴ礁堆積物の生産・運搬・堆積
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会21回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 横山祐典, 宮入陽介, 阿瀬貴博, 平林頌子
2. 発表標題 シングルステージ加速器質量分析装置を用いた放射性炭素分析とその応用
3. 学会等名 日本質量分析学会・日本プロテオーム学会2018年合同大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 戦争遺跡を科学する－USS エモンズと特攻に関する調査研究－
3. 学会等名 琉球沖縄歴史学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 沖縄県の水中遺跡
3. 学会等名 シンポジウム『沖縄県における水中遺跡の調査研究と保存活用』
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 琉球列島で沈没した異国船の調査と研究
3. 学会等名 企画展「沖縄県の水中遺跡・沿岸遺跡」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田喜久
2. 発表標題 琉球列島の海底洞窟から得られたリュウグウモエビ科エビ類
3. 学会等名 日本甲殻類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 水山克, 久保弘文, 伊勢優史, 藤田喜久
2. 発表標題 琉球列島における海中洞窟の貝類相
3. 学会等名 沖縄生物学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岡西政典, 藤田喜久
2. 発表標題 海底洞窟に生息するクモヒトデ類について
3. 学会等名 沖縄生物学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下村通誉, 藤田喜久
2. 発表標題 南西諸島の海底洞窟より採集されたアミ目(フクロエビ上目)
3. 学会等名 日本動物分類学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 最先端の地理学で可視化する米軍艦エモンズ
3. 学会等名 九州大学 先導学的学術拠点 浅海底フロンティア研究センター 一般公開シンポジウム「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片桐 千亜紀
2. 発表標題 沖縄戦と戦争遺跡
3. 学会等名 九州大学 先導学的学術拠点 浅海底フロンティア研究センター 一般公開シンポジウム「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉崎 伸
2. 発表標題 水中考古学から見たエモンズの戦い
3. 学会等名 九州大学 先導学的学術拠点 浅海底フロンティア研究センター 一般公開シンポジウム「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中西 裕見子
2. 発表標題 水中文化遺産と戦争の記憶-ハワイ・USSアリゾナの事例
3. 学会等名 九州大学 先導学的学術拠点 浅海底フロンティア研究センター 一般公開シンポジウム「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 マシュー・オーガスティン
2. 発表標題 太平洋戦争の歴史と記憶のあり方
3. 学会等名 九州大学 先導学的学術拠点 浅海底フロンティア研究センター 一般公開シンポジウム「浅海底の戦争遺跡：その記録と伝承」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 最新技術がとらえる沈没船
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター 一般公開講演会「沈没船の物語：水中考古学の世界」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山船 晃太郎
2. 発表標題 西洋の船： 神話の船から大航海時代まで
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター 一般公開講演会「沈没船の物語：水中考古学の世界」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐々木 蘭貞
2. 発表標題 東洋の船： 海底からよみがえる真実
3. 学会等名 九州大学 浅海底フロンティア研究センター 一般公開講演会「沈没船の物語：水中考古学の世界」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 高解像度海底地形図の作成とそれを基にした学際研究の枠組み
3. 学会等名 九州大学大学院地球社会統合科学府公開シンポジウム「統合的学際研究の新たな展開」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山船 晃太郎
2. 発表標題 水中考古学と地形学の融合：フォトグラメトリーを使った浅海底の記録
3. 学会等名 九州大学大学院地球社会統合科学府公開シンポジウム「統合的学際研究の新たな展開」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田和彦
2. 発表標題 サンゴ礁浅海底における地形学と地質学の融合：気候変動と地殻変動の影響を受けたサンゴ礁システムの統合理解に向けて
3. 学会等名 九州大学大学院地球社会統合科学府公開シンポジウム「統合的学際研究の新たな展開」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 最先端技術を用いたUSSエモンズの地図化とその意義
3. 学会等名 九州大学大学院 地球社会統合科学府授業 統合学際研究法「浅海底の戦争遺跡：どのように可視化し、どのように伝えるか？」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 沖縄戦と戦争遺跡 エモンズを理解する為に
3. 学会等名 九州大学大学院 地球社会統合科学府授業 統合学際研究法「浅海底の戦争遺跡：どのように可視化し、どのように伝えるか？」
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Vila-Concejo, A., Duce, S., Nagao, M., Nakashima, Y., Ito, M. Fujita, K., Kan, H.
2. 発表標題 Typhoon waves on coral reefs
3. 学会等名 Coastal Dynamics 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鈴木 淳, 酒井一彦, 林 正裕, 山本雄三, 太田雄貴, 井口 亮, 井上麻夕里, 菅 浩伸, 野尻幸宏
2. 発表標題 海洋酸性化現象が浅海の付着生物の加入定着に与える影響評価実験
3. 学会等名 日本海洋学会秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 菅 浩伸, 藤田和彦, 横山祐典, 浦田健作, 中島洋典, 堀 信行, 長尾正之, 羽佐田葉子, Frederic SINNIGER, 宮入陽介, 石沢成美, 岩田良哉, 大城夏生
2. 発表標題 湿潤熱帯域の浅海底地形学：石垣島名蔵湾の沈水カルスト地形の発達
3. 学会等名 日本地理学会2018年春季学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐千亜紀
2. 発表標題 紺碧の海に沈んだ異国船の謎を探る
3. 学会等名 平成30年度おきなわ県民カレッジ第7回美ら島沖縄学講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西 裕見子
2. 発表標題 沖縄での水中遺跡公園の設置をめざして
3. 学会等名 沖縄県立埋蔵文化財センター文化講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤真裕子, 森 愛, 本郷宙軌, 浅海竜司, 宮入陽介, 横山裕典, 藤田和彦
2. 発表標題 星砂の摩耗度と放射性炭素年代に基づく瀬底島海浜堆積物の年代と堆積過程
3. 学会等名 JpGU-AGU Joint Meeting 2017
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Katagiri, C., Nakanishi, Y., Ono, R., Miyagi, H.
2. 発表標題 Basic studies on the Western shipwrecks discovered in the Ryukyu Archipelago and their influence on modern society
3. 学会等名 3rd Asia-Pacific Regional Conference on Underwater Cultural Heritage (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kan, H., Fujita, K., Hasegawa, H., Nagao, M., Nakashima, Y., Hori, N.
2. 発表標題 Multibeam Bathymetric Mapping of Reef Geomorphology, eastern Kume Island.
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Fujita, K., Ito, M., Kiyoshima, R.
2. 発表標題 Production, transport and depositional process of reef sediments around Hatenoamasand cay (Okinawa, Japan)
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Watanabe, M.
2. 発表標題 Numerical simulation of storm waves at Kume-jima Island
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kan, H.
2. 発表標題 High-resolution Bathymetric Mapping Project for coral reef geomorphology and related sciences in the Ryukyu Islands, Japan
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yokoyama, Y., Hirabayashi, S., Kubota, K., Kawakubo, Y., Miyairi, Y.
2. 発表標題 North Western Pacific Oceanography recorded in Porites coral skeleton
3. 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1 . 発表者名 Fujita, K.
2 . 発表標題 Use of large benthic foraminifers to solve reef paleoenvironmental and sedimentological problems
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Ito, M.
2 . 発表標題 Production age, transport and depositional processes of beach sediments around Sesoko Island (Okinawa, Japan), based on abrasion grades and radiocarbon ages of Baculogypsina (Foraminifera)
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Hori, N.
2 . 発表標題 The geographical distribution and the formational model of coral reefs in the world
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1 . 発表者名 Toguchi, K., Fujita, Y., Nakai, T., Hasegawa, H., Takahashi, S., Kan, H.
2 . 発表標題 Bio-Geomorphological Evaluation of the Depression “Katama” Located in the Reef Edge as a Fishery Ground
3 . 学会等名 Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2017年

1. 発表者名 菅 浩伸
2. 発表標題 マルチビーム測深等を用いた浅海底の地形図づくりとその学術利用
3. 学会等名 九州大学浅海底フロンティア研究センターシンポジウム「最先端の浅海底地形図づくりとその活用－沿岸域の科学的理解と利用に向けて－」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中西 裕見子
2. 発表標題 浅海底地形図を使った沖縄海底遺跡ミュージアム構想
3. 学会等名 九州大学浅海底フロンティア研究センターシンポジウム「最先端の浅海底地形図づくりとその活用－沿岸域の科学的理解と利用に向けて－」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藤田和彦
2. 発表標題 海底地形図の学際研究活用と日豪共同研究プロジェクトJASAG
3. 学会等名 九州大学浅海底フロンティア研究センターシンポジウム「最先端の浅海底地形図づくりとその活用－沿岸域の科学的理解と利用に向けて－」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀 信行
2. 発表標題 地図を使って多様性の中に秩序を見いだす　ダーウィンの時代からの試み
3. 学会等名 九州大学浅海底フロンティア研究センターシンポジウム「最先端の浅海底地形図づくりとその活用－沿岸域の科学的理解と利用に向けて－」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Kan, H., Fujita, K., Hasegawa, H., Nagao, M., Nakashima, Y., Hori, N.
2 . 発表標題 High-energy window in modern reefs: an example from multibeam bathymetric mapping of reef geomorphology around the Ryukyu Islands.
3 . 学会等名 13th International Coral Reef Symposium (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Webster, J. M., Braga, J. C., Humblet, M., Potts, D. C., Iryu, Y., Yokoyama, Y., Fujita, K., Bourillot, R., Esat, T. M., Fallon, S., Thompson, W. G., Thomas, T. L., Kan, H., McGregor, H. V. Hinestrosa, G
2 . 発表標題 The evolution of the Great Barrier Reef over the past 30 ka - new insights from IODP Expedition 325.
3 . 学会等名 13th International Coral Reef Symposium (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Fujita, K., Yagioka, N., Nakada, C., Kan, H., Yokoyama, Y., Webster, J. M.
2 . 発表標題 Back-reef developments during MIS2 sea-level falls: IODP Expedition 325, Great Barrier Reef.
3 . 学会等名 13th International Coral Reef Symposium (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1 . 発表者名 Kan, H., Fujita, K., Yokoyama, Y., Suzuki, A., Miyairi, Y., Webster, J.
2 . 発表標題 Carbonate cement as an indicator of sea level during the last glacial period: IODP Exp. 325, Great Barrier Reef Environmental Changes.
3 . 学会等名 Goldschmidt 2016 (国際学会)
4 . 発表年 2016年

1. 発表者名 Kan, H., Katagiri, C., Ono, R., Nagao, M., Nakanishi, Y., Yoshizaki, S.
2. 発表標題 3D visualization of USS Emmons (WWII wreck) off Okinawa Island using multibeam bathymetry and PhotoScan SfM software.
3. 学会等名 The Sixth International Congress on Underwater Archaeology (IKUWA6) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Sinniger, F., Prasetya, R., Kan, H., Harii, S.
2. 発表標題 Are deep reefs really refuges during massive bleaching events?
3. 学会等名 日本サンゴ礁学会19回大会.
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 菅 浩伸, 長尾正之, 片桐千亜紀, 吉崎 伸, 中西裕美子, 小野林太郎
2. 発表標題 マルチビーム測深と多視点ステレオ写真測量(SfM)を組み合わせた海底の精密三次元モデル構築: 水中戦争遺跡とサンゴ礁地形を例として.
3. 学会等名 2017年日本地理学会春季学術大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Ono, R. and A. Pawlik eds.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 IntecOpen Publisher. Open Access E Book	5. 総ページ数 191
3. 書名 Pleistocene Archaeology-Migration, Technology, and Adaptation.	

1. 著者名 テルモ・ピエパニ, バレリー・ゼトゥン, 小野 林太郎, ナショナル ジオグラフィック	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日経ナショナルジオグラフィック社	5. 総ページ数 208
3. 書名 人類史マップ	

1. 著者名 中西 裕見子, 片桐 千亜紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同成社	5. 総ページ数 250
3. 書名 地中海の水中文化遺産	

1. 著者名 小野林太郎	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 240
3. 書名 海の人類史 東南アジア・オセアニア海域の考古学 増補改訂版	

1. 著者名 小野林太郎, 長津一史, 印東道子 編著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 394
3. 書名 海民の移動誌 西太平洋のネットワーク社会	

1. 著者名 高橋そよ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 コモンズ	5. 総ページ数 264
3. 書名 沖縄・素潜り漁師の社会誌 サンゴ礁資源利用と島嶼コミュニティの生存基盤	

1. 著者名 高橋そよ	4. 発行年 2018年
2. 出版社 新星図書出版	5. 総ページ数 68-101
3. 書名 サンゴ礁と共に生きる知恵 素潜り漁師の民俗知識と漁撈活動，宮古の自然と文化を考える会編『宮古の自然と文化 第4集 天・地・人の調和	

1. 著者名 片桐千亜紀	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ポーターインク	5. 総ページ数 112-113
3. 書名 『南島考古入門 - 掘り出された沖縄の歴史・文化』 第 章第 節 水中遺跡	

1. 著者名 渡久地 健	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 362
3. 書名 サンゴ礁の人文地理学：奄美・沖縄，生きられる海と描かれた自然	

〔産業財産権〕

〔その他〕

九州大学 浅海底フロンティア研究センター ホームページ

<https://isgs.kyushu-u.ac.jp/~seafloor/>

九州大学 菅 浩伸研究室

<https://isgs.kyushu-u.ac.jp/~kan/>

九州大学 菅 浩伸研究室 「研究内容」 マルチビーム測深技術を用いた沿岸浅海域の研究

https://isgs.kyushu-u.ac.jp/~kan/research_01/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤田 和彦 (Fujita kazuhiko) (00343377)	琉球大学・理学部・教授 (18001)	
研究分担者	後藤 和久 (Goto kazuhisa) (10376543)	東京大学・大学院理学系研究科(理学部)・教授 (12601)	
研究分担者	横山 祐典 (Yokoyama yusuke) (10359648)	東京大学・大気海洋研究所・教授 (12601)	
研究分担者	長谷川 均 (Hasegawa hitoshi) (80208496)	国土館大学・文学部・教授 (32616)	
研究分担者	藤田 喜久 (Fujita yosihisa) (20771463)	沖縄県立芸術大学・音楽学部・准教授 (28001)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	堀 信行 (Hori nobuyuki) (40087143)	奈良大学・その他部局等・特別研究員 (34603)	
研究分担者	高橋 そよ (Takahashi soyo) (60772829)	琉球大学・人文社会学部・准教授 (18001)	
研究分担者	鈴木 淳 (Suzuki atsushi) (60344199)	国立研究開発法人産業技術総合研究所・地質調査総合センター・研究グループ長 (82626)	
研究分担者	小野 林太郎 (Ono rintaro) (40462204)	国立民族学博物館・人類文明誌研究部・准教授 (64401)	
研究分担者	中島 洋典 (Nakashima yosuke) (90172303)	有明工業高等専門学校・一般教育科・教授 (57102)	
研究分担者	平林 頌子 (Hirabayashi shoko) (40835641)	立正大学・地球環境科学部・助教 (32687)	
研究分担者	中井 達郎 (Nakai tatsuo) (10550915)	九州大学・比較社会文化研究院・共同研究者 (17102)	
研究分担者	片桐 千垂紀 (Katagiri chiaki) (70804730)	九州大学・比較社会文化研究院・共同研究者 (17102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中西 裕見子 (Nakanishi yumiko) (10845754)	九州大学・比較社会文化研究院・共同研究者 (17102)	
研究分担者	渡久地 健 (Toguchi ken) (30543764)	琉球大学・国際地域創造学部・准教授 (18001)	
研究分担者	長尾 正之 (Nagao masayuki) (70251626)	国立研究開発法人産業技術総合研究所・地質調査総合センター・主任研究員 (82626)	
研究分担者	波利井 佐紀 (Harii saki) (30334535)	琉球大学・熱帯生物圏研究センター・准教授 (18001)	削除：2018年11月9日

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	浦田 健作 (Urata kensaku)		
研究協力者	井上 麻夕里 (Inoue mayuri)		
研究協力者	Sinniger Frederic (Sinigeru furederikku)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	井口 亮 (Iguchi akira)		
研究協力者	山船 晃太郎 (Yamafune koutarou)		
研究協力者	V i l a - c o n c e j o A n a (Bira konshejo ana)		
研究協力者	W e b s t e r J o d y (Webusuta jodi)		
研究協力者	D u c e S t e p h a n y (Dyusu sutefanii)		
研究協力者	A r o n s o n R i c h a r d (Aronson richado)		
研究協力者	T o t h L a u r e n (Tosyu roren)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計4件

国際研究集会 日豪サンゴ礁地形学シンポジウム:Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2018	開催年 2018年～2018年
--	--------------------

国際研究集会 日豪サンゴ礁地形学ワークショップ:Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Workshop 2018	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 日豪サンゴ礁地形学シンポジウム:Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG) Symposium 2017	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 日豪サンゴ礁地形学ワークショップ: Japan-Australia Sangosho Geomorphology (JASAG)Workshop 2017	開催年 2017年～2017年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オーストラリア	The University of Sydney	James Cook University	
米国	Florida Institute of Technology	U.S. Geological Survey	